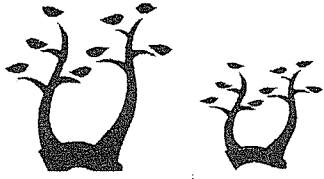


「鵜沼の緑と景観を守る会」機関紙

# 鵜沼の緑

総会・4月例会・報告



発行 藤沢市鵜沼地区「鵜沼の緑と景観を守る会」

(略称:みどりの会)

事務局 代表 北村裕彦(携帯090-9836-5157)

## 平成24年定時総会および4月例会・懇談会報告

第11回総会および4月例会は4月15日(日)15時から鵜沼公民館で開かれました。出席者25名。司会古山幹事、書記佐藤幹事。恒例の「高木ふれあい荘」の清掃は9時半から行われ参加者は5名でした。

### 第11回定期総会報告

総会に先だって議長選出が行われ、北村代表が選出されました。北村代表から本日の総会は委任多数により成立するとの報告があり、さっそく議事に入りました。

議案は第1号から第5号まで、それぞれの担当者から報告と説明がありました。

#### 第1号議案 平成23年度活動報告

<北村代表から各月ごとに活動内容の説明。特筆したい点をいくつか紹介します。>

- 4月 例会は東日本大震災で公民館が使用出来ず休会。災害物資受付が公民館前で行われ、当会員も協力しました。
- 5月 第10回定時総会が開かれる。講演会「議員生活を振り返って」河野顕子会員
- 6月・7月 学習会で「五友会の住民協定」にむけての取組の現状について。6月は高橋武俊氏、7月は五友会まちづくり委員の佐藤芳明氏から話を聞きました。
- 9月 学習会「防災まちづくりと景観について」三野由美子会員(前市議)
- 10月 村川邸百歳見学とシンポジウム。当会から2名参加。
- 11月 公民館まつりに出展。景観写真の掲示、子どもたちの絵に人気がありました。
- 12月 学習会「災害に対する県の対応を中心に」斎藤県議(当会員)
- 2012 1月 湯浅会員が神奈川県知事宛に「津波避難」と「海岸林形成」に関する提案を送付。そのことに対する県知事からの回答をめぐって懇談。
- 2月 ニコニコ自治会・鵜沼景観まちづくり・鵜沼の緑と景観を守る会の三団体の活動報告会。懇談会「想定される地震・津波に我々はどう対処すべきか」高橋志保彦氏(当会顧問)の話を中心に。
- 3月 鵜沼公民館ホールで開催された公開勉強会「かながわの海岸防災を考える」での宮脇昭氏の講演に感銘を受けました。

**第2号議案** <平成23年度決算報告> 戸井田幹事（会計担当）より報告。 3P参照

**第3号議案** <役員・顧問改選の件>

幹事に坂下光雄さん、澤田雅男さんが新任されました。3P参照

**第4号議案** <平成24年度活動計画>

計画的まちづくりの推進を継続していくことが中心課題です。3P参照

**第5号議案** <平成24年度予算案>

戸井田幹事より説明。

本年も会員みなさんに会費納入をお願いする旨の要請がありました。3P参照

**以上、報告および説明を終了し満場一致で全議案は可決されました。**



## 4月例会報告



### 1 2012ふじさわ景観まちづくり賞

藤沢市都市景観条例に基づき、景観形成に寄与した建築物や工作物、市民活動などに与えられる賞で平成21年度に景観部門で旧後藤医院(現、鵜沼橋市民の家)、まちづくり部門で当会が表彰されています。

●第2回2011年度の表彰は次の通りです。

景観部門 建築物の部 1. テラスモール湘南 2. 桔梗屋洋紙株式会社 3. 三笠会館鵜沼店  
4. パークハウス江ノ島 5. 有限会社 魚華

まちづくり部門 「湘南ふじさわウォーキング協会」「藤沢文化創造の丘をすすめる会」  
「蔵まえギャラリー」「長後地区違法広告物はづし隊」「円行公園竹林の会」  
「ふじさわ大清水心のかげはし会」「片瀬海岸2丁目建築協定運営委員会」

このほか 景観部門 屋外広告物の部 4件 ふじさわ景観まちづくり奨励賞 3件

### 2 ニコニコ自治会地区が景観形成地区に

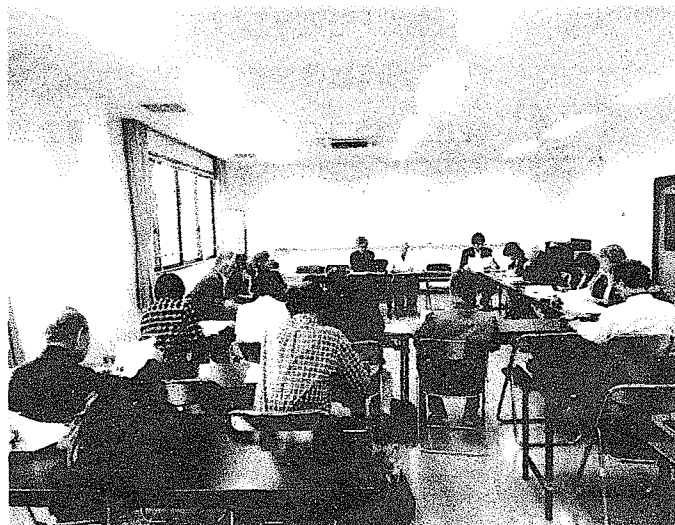
平成5年、藤沢市内全地区に先駆け住民協定締結したニコニコ自治会はこの度景観形成地区指定に向けての手続きを開始した。ニコニコ自治会景観形成地区景観形成基準を記載した資料は藤沢市景観課で配布している。

### 3 特定非営利活動法人「地域魅力」による

「鵜沼地区防災型歴史的まち並みツーリズム計画」の提案

国土交通省による平成24年度歴史的風致維持向上推進等調査の募集に応募したもの。

詳細は後日。



2012・4・15

### 平成23年度 決算報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

#### ◎緑の会決算報告

単位 円

科目	収入		支出	
	予算	決算	予算	決算
前年度繰越額	66,460	66,460		
会費収入	150,000	174,000		
雑収入	20,000	47,569		
助成金	30,000	0		
事務費			20,000	15,656
通信費			20,000	14,400
広報費			70,000	11,685
交通費			10,000	7,840
資料代			10,000	9,900
行事運営費			110,000	35,928
会議費			10,000	4,700
研修費			10,000	16,500
予備費			6,460	0
合計	266,460	285,929	266,460	166,621

次年度繰越額 収入額(285,929)－支出額(166,621)＝次年度繰越額 121,408

#### ※緑の会 決算報告の補足

- 雑収入(47,569)内訳
  - (1)寄付金 K氏 20,000
  - (2)公民館まつり&旧後藤医院報告書 23,650
  - (3)カンパ 3,700
  - (4)利息 19
- 行事運営費(35,928)一節内訳
  - (1)松の苗木 30本(4320) 9,600
  - (2)子供の絵 65名 20,266

以上、ご報告いたします。

会計担当 戸井田 道子 印

平成24年4月6日

監査の結果、適正であると認めます。

監査担当 河上 精祐 印

5

本組合特約の時をもって役員・顧問全員が任期満了となります。つきましては今年度の役員・顧問の選任を願いたく、候補者として次の方々を推薦したいと存じます。

代表	北村 裕彦	(再任)
副代表	佐藤 恒雄	広報担当 (再任)
幹事	中島 明	(再任)
	北岡 隆太郎	(再任)
	桑田 由加子	(再任)
	桑田 美栄	(再任)
	坂下 光雄	(新任)
	十代田 亮三	(再任)
	手塚 智之	(新任)
	野田 幸久文	(再任)
	早田 孝次郎	(再任)
	廣田 勉夫	(再任)
	吉田 二郎	(再任)
	三原 栄一	(再任)
	八幡 三郎	(再任)
	澤田 雅男	(新任)
	森田 千枝	(再任)
会計	戸井田 道子	(再任)
監査	河上 精祐	(再任)
顧問	斎藤 忠保彦	(再任)
	河野 順子	(再任)

6

#### 平成24年度活動計画(案)

##### 1. 計画的まつりづくりの推進

鶯沼地区の緑と景観を守るための運動の総統

##### 2. 鶯沼の緑と景観の現状把握とその保全活動

##### 3. 海岸防災林造成のための植栽運動の展開

##### 4. 行政、地域団体との連携

##### 5. 会の活性化

- ① 例会はじめ各種催しへの会員の参加促進
- ② 各種イベントの強化  
景観シンポ、学習会、まちあるき、バスマジ学会、演奏会など

##### 6. PR活動の推進

- ① 機関誌「鶯沼の緑」の定期継続的発行
- ② ホームページの内容充実

7

#### 平成24年度 予算(案)

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

#### 【収入の部】

単位 円

科目	予算額	摘要
前年度繰越額	121,408	
会費収入	150,000	一般会員 150名
雑収入	20,000	寄付
助成金	20,000	助成金
計	311,408	

#### 【支出の部】

単位 円

科目	予算額	摘要
事務費	20,000	事務消耗品費
通信費	20,000	広報誌 発送
広報費	70,000	「鶯沼の緑」広報誌 製作費
交通費	10,000	シンポ、フォーラム各種プレゼン参加費
資料代	20,000	学習会資料作成
行事運営費	140,000	公民館まつり&その他
会議費	10,000	公民館会議室使用料
研修費	20,000	シンポ、フォーラム各種プレゼン参加費
予備費	1,408	
計	311,408	

8

# 懇談会 神奈川県地震災害対策計画について

～ 斎藤県議を囲んで ～

昨年12月の学習会での話の内容をたたき台として、今回は予想される地震災害に対する神奈川県の対策を中心に、さらに慶長型地震をモデルにして進めたいと説明がありました。

## 1 県の基本的な考え方について

東日本大地震の教訓や経験を踏まえ、次の5つの視点から計画を修正。

### ① 「自助」「共助」による取組みを強化

「公助」による応急活動だけでは、「いのち」を確実に守ることは困難。「公助」だけでなく、県民、企業、団体などによる「自助」・「共助」の取組みを強化する。

### ② 正確かつ迅速な情報の収集・提供体制の強化

### ③ 市町村や企業、団体等との連携強化

県全域の災害対応力向上を図るため、市町村、他都道府県、国との連携等、一層強化します。

### ④ 地域の実情に応じた対策の実施

震災発生時に被害を最小限に抑えるためには

、自然的、社会的条件など地域の実情に応じた災害に強いまちづくりや避難対策が必要。県は役割分担を踏まえた中で、市町村の取組を支援します。

### ⑤ 柔軟な災害対応の実施

どのような地震災害であっても、人的被害を軽減し、県民等の生活・社会活動への影響を最低限に抑えられるよう、柔軟な対策づくりを進めます。

「自助」・・・自分の身を自分の努力によって守る

「共助」・・・地域や近隣の人などお互いに協力し合う



## 2 1の基本的な考え方に加えて、＜主な追加・修正事項＞として7項目挙げており、その主なものを紹介します。

① 津波に強いまちづくり・・・今年3月、宮脇昭さんと細川元総理同道で丘の長城づくり、砂防林について野田首相に直訴したそうです。

② 避難施設の整備・・・これについては現在モデルケースとして着工中の鵠沼海岸の避難タワーについて触れ、一時避難してどれだけ役立つか、また、地元の意見を聞いてタワーのデザインも考慮すべきだといった意見が出されました。

③ 伝達体制等の整備・・・沿岸市町は全国瞬時警報システム（J-ALERT）や防災行政無線の整備を進めます。こうした初動体制をどうするか。町内会や市民センターの対応を検討しておく必要があるということです。

④津波に関する知識の普及・・・沿岸市町は新たな津波浸水予測図及び津波ハザードマップ作成し、住民等への周知を図ります。慶長型地震をモデルにした津波浸水予測図によりますと、鵜沼海岸の最大津波高さは10・7m、最大津波到達時間は72分だそうです。

鵜沼の液状化対策について質問がありましたが、県の一般的な対策が示されているだけで、鵜沼地区は特に具体策を検討していきたいとのこと。一般的な対策としては液状化想定図や古地図による土地の利用状況に関する情報を提供し、ホームページ等で普及啓発していくそうです。

最後に斎藤さんが提供して下さった多くの資料の中から東日本大震災に関するものを紹介します。

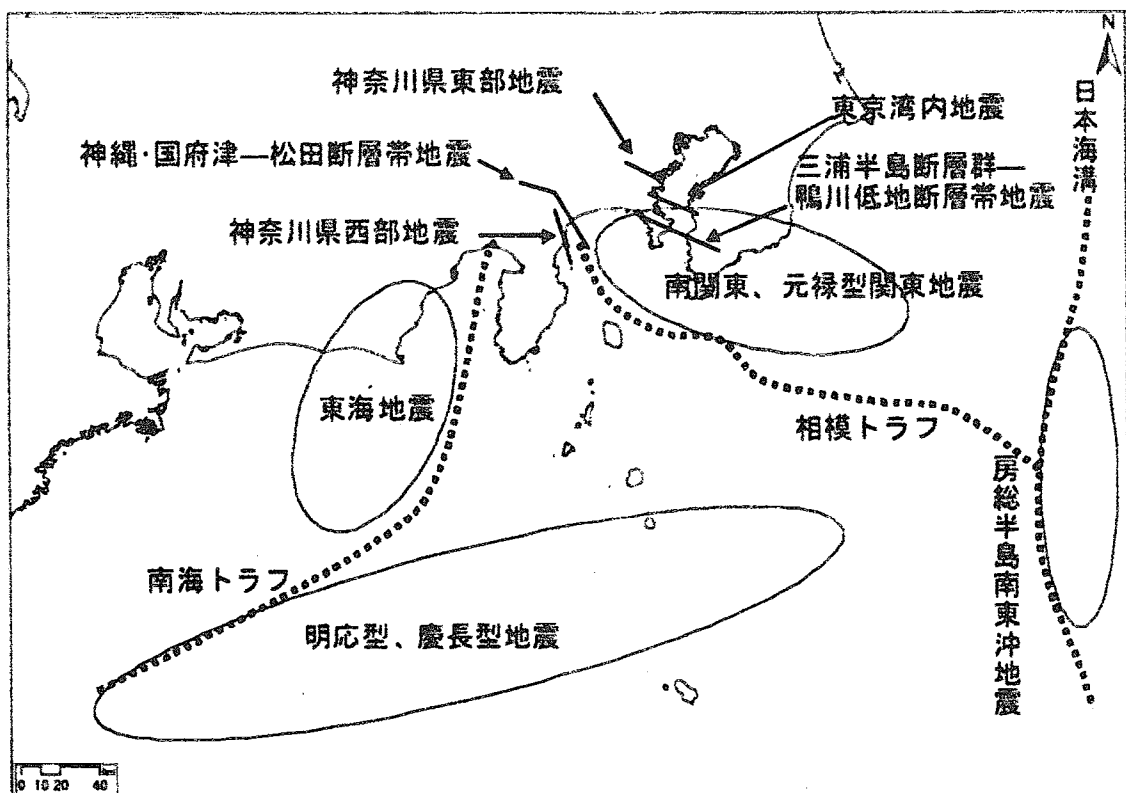
### 新たな津波浸水予測図 解説書より

(神奈川県県土整備局)

今般の東日本大震災では、太平洋プレートと北アメリカプレートの境界線（日本海溝付近）における海溝型地震で、震源域は東北地方から関東地方にかけての太平洋沖の幅約200km、長さ約500kmの広範囲に亘りました。

今回、想定した歴史地震等については、フィリピン海プレートとユーラシア大陸との境界域地震に該当します。過去に発生したことはわかっていながら、当時の知見で想定の対象外としたことの一つは、具体的な防災対策の検討のもとになる震度と津波高などの地震像全体の再現が困難であったことによります。今後は、たとえ地震像全体が十分解明されていなくとも、想定対象地震として活用することを検討していく必要があります。確からしさが低くても、地震・津波被害が圧倒的に大きかったと考える歴史地震については、十分考慮する必要があるからです。

(震源位置図)



# 防災に向けて「鵜沼・辻堂海岸」を歩く

東日本大震災のような大地震が関東で起きたら、津波でここ湘南海岸では・・・。  
 防災のための海岸線はどうあるべきなのだろうか。防災林の役目になる樹木は？  
 これからみどりの会として、取り組んでいく方策を探るには、まず現状を知ることから始め  
 ようと会員で歩いて視察をする計画を立てました。一緒に歩いて現状を把握しましょう。

5/20(日)

集合場所&時間 平和の像（鳩を掲げたブロンズ像）の前 午前11：00

湘南海岸公園 サーフビレッジ建物の東側

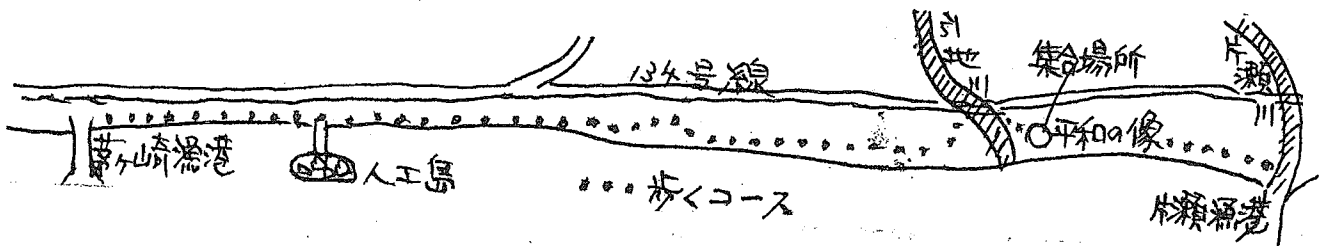
行程 平和の像前を11：00出発⇒①東コースの江の島方面を往復30分で  
 歩く。平和の像付近で昼食（11：30～12：10）  
 昼食後、平和の像を12：10出発⇒②西コースを辻堂・茅ヶ崎方面を  
 往復110分（休憩時間10分を含む）で歩く。  
 その後、5月例会・会場の鵜沼公民館へ

所要時間 3時間（午前11：00～午後14：00）

用意するもの 昼食・飲料水・タオル・雨具など。

- \* 歩きやすい靴で（運動靴など）。
- \* 歩くのに不安な方は自転車での参加が可能です。
- \* トイレは数か所あります。

<平和の像の東側では津波避難施設（タワー）の建設工事が始まっています>



## 5月日程のお知らせ



編集会議	5月9日(水)	14:00~
広報印刷	5月11日(金)	15:00~
高木ふれあい荘清掃	5月20日(日)	9:30~
「海岸を歩こう」	5月20日(日)	11:00~
例会	5月20日(日)	15:00~
懇談会・「海岸を歩いてみて」		16:00~
〇邸清掃	5月10日(木)	9:30~
幹事会	5月27日(日)	10:00~

編集係より

先日は北朝鮮のミサイルの発射で世  
 界中がビリビリしました。  
 結果は失敗に終わりましたが、何かホット  
 したというのが実感です。  
 今月の二十一日は首都圏で一七三年  
 振り、江戸時代以来の金環食が見られる  
 ということです。同じ天空を見上げるの  
 でもミサイルよりはやはり江戸粋人も  
 眺めた自然現象の方がいいですね。

(佐)